

文言の意味と出典

テーマ：慈（いつくしみ） 出典：仏教伝道協会主催「願いの一字 2025」

いつくしみ。思いやりの心、ことば、行い。楽しみを与える情け深さ。真実の友情。四無量心〔慈・悲・喜・捨〕の一つ。慈悲の略。特定の人の対してではなく、すべての人びとに友情をもつことが慈である。（中村元『広説佛教語大辞典上巻』）

- 1：風光日々新 出典：禪語
大自然の風景のように、日々新たな変化があるという意。『大学』にある日一日と自らを新たにする「日新日々新又日新」と「風光（風景や景色）」の移ろいを重ねた禪語。
- 2：楽を与えるを慈という 苦を抜くを悲という 出典：龍樹『大智度論』
仏・菩薩が衆生の苦しみを抜いて福樂を与えること。ほとけの心は大慈悲なりという言葉もある。
- 3：たいまつを放さない人の手をたいまつが焼く 出典：『ウダーナヴァルガ』
愛欲は愚かなる者どもを焼きつくす——たいまつを放さない人の手を、たいまつが焼くように。（中村元『ブッダの真理のことば・感興のことば』）
- 4：己を忘れて他を利する 出典：最澄『山家学生式』
悪いことは自分で引き受け、よいことは他にまわして、自分のことをさしおいて他のためになるようにすることこそ、慈悲のきわまったあり方である。（奈良康明『仏教名言辞典』）
- 5：桜桃桃李 紅蘭紫菊 出典：『古今著聞集』
春には桜・梅・桃・すももの花が咲き、秋には紅蘭や紫菊が咲く。それぞれが織物のような色彩で、強い香りを放っている。それぞれ個性が輝いているさま。
- 6：心を大河のように深く 出典：『仏教聖典』仏教伝道協会刊
人は、心を大地のように広く、大空のように限りなく、大河のように深く、なめした皮のように柔らかに養わなければならない。
- 7：晴れた日は晴れを愛し 雨の日は雨を愛す 出典：名言（吉川英治）
このことばはとても前向きで、気持ちを振らせていた自分を方向転換させてくれます。天気のことだけでなく、その日起こった出来事について、どんな日でも気持ちの持ちようでいい一日になるのだと、いい一日だと思うのも悪い一日だと思うのも、すべて自分次第なのだと教えてくれるからです。（『光華女子学園HP 今月のことば』）
- 8：足りないものは音をたてるが 満ち足りたものは全く静かである 出典：『スッタニパータ』No. 721
「愚者は半ば水を盛った水瓶のようであり、賢者は水の満ちた湖のようである」であり、また同 No. 720 には「河底の浅い小川の水は音を立てて流れるが、大河の水は音を立てずに静かに流れる」とあります。（『仏教大学同窓会HP 今月のことば』）
- 9：豊かだから施すのではない 施すから豊かになるのだ 出典：お寺の掲示板大賞（広島県・超覚寺）
新型コロナや不穏な世界情勢など、将来不安で内向きになり、様々なものを握りしめがちな昨今。
でも、どんな時でも世界はご縁でつながっていて、施すを通じてそのご縁を温めることが、今こそ必要な時だと思います。施しも食べ物やお金だけでなく、親切、笑顔など、色々あります。自分の身のできる施しでご縁を温め、みんなで豊かになっていくことこそ、真の豊かさと言えるのではないのでしょうか。
- 10：雲破れて 月 池に来る 出典：『中峰広録』
大空を覆っていた暗雲がきれいに消え去って、清々しい月の姿が池の水面に映っている。転じて、煩惱や妄想など、心を覆っていた闇がすべてなくなって、悟りの明月が輝きはじめたことを表す。（朝山一玄『茶席の禅語句集』）
- 11：いま生命あるは有難し 出典：『仏教聖典』仏教伝道協会刊
人に生まるるは難く、いま生命あるは有難く、世に仏あるは有難く、仏の教えを聞くは有難し。
- 12：花の咲く緑が集まって花は咲く 出典：『仏教聖典』仏教伝道協会刊
花の咲く緑が集まって花は咲き、葉の散る緑が集まって葉は散る。ひとり咲き、ひとり散るのではない。
- 13：心は器の如し 出典：日蓮『秋元御書』
人生は思い通りにならないことの繰り返し。自分と違った意見や考えがあるのは当然です。互いに刺激し合い、さらに自分と向かい合うことで心の器は広がります。そして相手をそのなかに受け入れることで人は成長していくのです。（『日蓮宗ポータルサイト 今月の聖語』）
- 14：現在を大切にふみしめる 出典：『仏教聖典』仏教伝道協会刊
過ぎ去った日のことは悔いず、まだこない未来にはあこがれず、とりこし苦労をせず、現在を大切にふみしめてゆけば、身も心も健やかになる。
- 15：慈心不殺 出典：『観無量寿経』
慈心とは、（生きものに対する）いつくしみの心。柔和なこと。耐え忍ぶ心。ゆるす心。与樂（楽しみを与える）の心を意味する。不殺とは、殺さないこと。僧はもちろん、在家の信者たちが日常的な習慣として身につけるべき五つの戒めの筆頭にあげられる。（中村元『佛教語大辞典』）
- 16：悪性さらにやめがたし ころろは蛇蝎のごとくなり 出典：親鸞『愚禿悲歎述懐和讃』
悪い本性はなかなか変わらないのであり、それはあたかも蛇やさそりのようである。だからたとえどんなよい行いをして、煩惱の毒がまじっているの、いつわりの行いというものである。（『浄土真宗本願寺派総合研究所HP 親鸞聖人のことば』）
- 17：闇があるから照らすということがあり 出典：『仏教聖典』仏教伝道協会刊
闇があるから照らすということがあり、闇がなくなれば照らすということもなくなる。
- 18：裏を見せ 表を見せて 散るもみじ 出典：『はちすの露』良寛
江戸時代の曹洞宗の僧侶である良寛の言葉です。[中略]この歌には「あなたには自分の悪い面も良い面も全てさらけ出しました。その上であなたはそれを受け止めてくれましたね。そんなあなたに看取られながら旅立つことができます」という貞心尼（良寛の弟子）に対する深い愛情と感謝の念が込められている。（『光華女子学園HP 今月のことば』）
- 19：両極端にとらわれず 常に中道を歩む 出典：『仏教聖典』仏教伝道協会刊
道を修める生活にとって大事なことは、両極端にとらわれず、常に中道を歩むことである。
- 20：水になれ 出典：名言（ブルース・リー）
ブルース・リーの名言「Be water」。「心を空にしろ／型をなくし、形をなくし、水のように／水をコップに注げばコップに／ボトルに注げばボトルに／ティーポットに注げばティーポットになる／水は流れる事も砕く事もできる／水になれ、友よ」。（『The Pierre Burton Show』）
- 21：人を導くものは教なり 出典：『続性靈集』空海
人を導くものは教えであり、教えのもととなるものは道である。その道は説く人がなければふさがり、その教えを演（の）べることがなければ衰えてしまう。（奈良康明『仏教名言辞典』）
- 22：貨幣の雨を降らすとも 欲望の満足されることはない 出典：『法句経』
たとえ貨幣の雨を降らすとも、欲望の満足されることはない。「快樂の味は短くて苦痛である」と知るのが賢者である（中村元『ブッダの真理のことば・感興のことば』）
- 23：一切不定なり 幻化なり 出典：『一遍上人語録』一遍
すべては定まることなく確かでない、すべての事物には実体がない。
- 24：船は帆でもつ 帆は船でもつ 出典：ことわざ
お互いにその分をつくして、助け合うことをいう。持ちつ持たれつ。（『故事俗事 ことわざ大辞典』小学館）
- 25：光明遍照 出典：光明遍照
阿彌陀仏の光明が、あらゆる世界をくまなく照らすこと。（『新纂 浄土宗大辞典』）
- 26：私（私という漢字の中に仏あり） 出典：お寺の掲示板大賞（広島県・超覚寺）
2つの意味があると感じました。1つ目は悉有仏性を一文字で現していて、仏語をしらなくても、直感的に理解できる。2つ目は私の中に仏性があるという意味ではなく、仏樹といったも寄り添ってくれている。1文字の中に2つの意味が感じられ、仏教が更に身近に感じられる掲示板だと感じました。
- 27：相和し 相敬う 出典：『仏教聖典』仏教伝道協会刊
弟子たちよ、おまえたちはこの教えのもとに、相和し、相敬い、争いを起こしてはならない。水と乳のように和合せよ。水と油のようにはじきあってはならない。
- 28：犀の角のようにただ独り歩め 出典：『スッタニパータ』
「サイの頭部にそそり立つ太い一本角のように、独りで自らの歩みを進めなさい」という意味です。[中略]仏教が孤独を勉める背景には「私たちの悩みは人間関係から起こる」との分析があります。つまり、悩みを生み出す原因が「人のつながり」にあるのなら、そこから一時的に離れてみることで心の成長に必要ということです。（『大谷大学HP きょうのことば』）
- 29：山河をみるは仏性をみるなり 出典：道元『正法眼蔵』
山河大地は仏性そのものである。[中略]山河を見るのは仏性を見ることである。（窪田慈雲『坐禅に活かす「正法眼蔵」現代訳抄』）
- 30：正しいことさえ執着すべきではない 出典：『仏教聖典』仏教伝道協会刊
正しいことさえ執着すべきではなく、捨て離れなければならない。まして、正しくないことは、なおさら捨てなければならない。（『仏教聖典』）
- 31：信は人の心を豊かにする 出典：『仏教聖典』仏教伝道協会刊
信は人の心を豊かにし、貪りの思いをなくし、おごる心を取り去って、へりくだり敬うことを教える（『仏教聖典』）